



アンゴラ共和国

アンゴラ共和国駐日大使館
在日アンゴラ共和国大使館

アンゴラ・日本二国間関係 50年にわたる友好と協力

鳥越信太郎 教授閣下、寺尾聡 教授閣下

田村ユ教授、西脇康弘教授

駐日ポルトガル大使 ジルベルト・ジェロニモ閣下；

ポルトガル語コースの学生の皆さん、ご列席の皆様、

「おはようございます」

この短い挨拶の冒頭にあたり、まず大阪大学から、9月9日に50周年を迎えたばかりのアンゴラ共和国と日本との友好・協力関係の歴史を、皆様と共有する機会を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

アンゴラと日本の外交関係は、1976年、我が国の独立直後に始まりました。そして過去数十年にわたり、日本は常に頼りになる重要なパートナーであり続けてきました。特に内戦終結後の時期には、様々なプログラムや活動の実施を通じて

人道支援分野において、地雷除去や農地・農業地域の復興を支援してきました。

アンゴラ共和国大使館が日本（2001年）に、また日本大使館がアンゴラ（2005年）に開設されたことで、両国の協力関係は新たな段階を迎え、人道支援の枠を超えた二国間協力が生まれ、エネルギー・水資源、農業、保健、人材育成・能力開発、技術、投資といった分野に重点を置いた、より広範なパートナーシップが構築され、協力の枠組みに実質的な変化がもたらされました。これらの取り組みは、わが国に日本国際協力機構（JICA）が設立されたことでより円滑に進められ、両国間のより緊密な二国間関係の構築に必要な推進力をもたらした。

▪ 二国間関係の評価

アンゴラ共和国と日本の外交関係は良好であると考えられているが、さらなる発展の余地もあるため、両国は政治・外交、経済、文化の各分野において、緊密な関係構築を優先的に進めている。

その他の分野について触れるならば、**政治の枠組みにおいて**、最高レベルでの相互訪問が行われていることが挙げられる。特に注目すべきは、2025年8月に横浜市で開催された「アフリカ開発のための東京国際会議（TICAD-9）」

」の首脳会合期間中に、アンゴラ共和国のジョアン・マヌエル・ゴンサルヴ
ェス・ロレンソ大統領と、日本の元首相である石破茂氏との間で

この会談は、2025年8月に横浜市で開催された「**アフリカ開発のための東京国際会議（TICAD-9）**」のサミット期間中に実施され、同会議では数多くの法的文書が署名されました。

閣僚レベルでは、去る5月に日本の茂木敏充外務大臣がアンゴラを訪問し、アンゴラの外務大臣と会談したことが特筆されます。会談では、二国間協力に関する諸問題について協議が行われ、特にアンゴラが豊富に保有する重要鉱物、エネルギー、資源の分野において、経済分野での関係を深化・拡大させたいとの意向が表明された。両大臣は、アンゴラの原油取引への日本企業の参画を促進することで合意した。

経済面において、また両国間の既存の協力の枠組みの中で、アンゴラは長年にわたり日本からの投資の恩恵を受けてきた。これらの投資は、わが国経済の成長のための強固な基盤を築くことを目的としており、複数の信用供与枠の設定を通じて、**3つの繊維工場の改修資金の調達に寄与したほか、アンゴラとブラジルを結ぶ光ファイバー回線の建設、ナミベ港の改修およびサコマール・ターミナルの建設**など、わが国の発展に寄与する重要な取り組みへの資金調達に役立ってきた。また、信用枠の開設、インフラ整備、水道・灌漑、送電線の延伸などを中心としたその他の重要な投資も行われている。

建設された数々のインフラのうち、特筆すべきは「南部**回廊**」が挙げられます。これは、トヨタ通商とTOA（JBICの融資を受けて）によって建設されたナミベ港を含むプロジェクトであり、モサメデス鉄道と接続し、近隣諸国（ザンビアおよびナミビア）への接続の可能性を秘めており、これによりアフリカの相互接続性が向上します。 もう一つ注目すべきプロジェクトは「**ロビト回廊**」です。これは**戦略的な**インフラであり、大洋（大西洋とインド洋）を結ぶ地域的な重要性から、日本の実業家たちの注目を集めている。このプロジェクトは、アンゴラ、コンゴ民主共和国、ザンビア、タンザニアといった国々を経由しており、鉄道沿線に住む農民のエンパワーメントの一環として、日本からの資金援助を受けている。

これらすべての取り組みは、両国間の「**投資の自由化、促進および保護に関する協定**（ALPPI）」によって法的に裏付けられており、これはアンゴラと日本の実業家間のビジネスアジェンダを具体化・実現するための重要な枠組みです。

多国間枠組みにおいては、我々の協力は「**アフリカ開発のための東京国際会議**（TICAD）」というメカニズムに焦点を当てています。これは日本とアフリカ諸国（アンゴラを含む）によって構成されるフォーラムであり、**政治、経済、社会の各分野**における一連の課題に取り組むことを可能

にしています。

■ 今後の展望

現時点では、エネルギーや鉱業（石油・ガスへのアクセス条件の整備や希土類鉱物の採掘）といった分野に焦点を当てた戦略的パートナーシップの構築に向けて引き続き取り組んでいきたいと考えています。さらに、運輸、産業、エネルギー、水産、科学技術、通信、観光といった協力分野も忘れずに、既存の相互経済的利益を最大限に活用することを目的とした合弁事業の創設を通じて、より一層のパートナーシップと投資を促進していきたいと考えています。

また、人々の中の協力と交流、とりわけ文化的・社会的な親睦の深化には、特別な注意を払わなければなりません。これこそが、私たちが今日ここに集まっている理由です。

「アンゴラ・日本友好記念年」を祝うこの節目に、アンゴラと日本が、豊かな未来に向けて、発展と共有の繁栄の道を歩み続けていくことを願っています。

ここにいらっしゃる学生の皆さんの多くが、語学力を活かし、また与えられた機会を最大限に活用して、単にわが国を知るだけでなく、アンゴラでのプロジェクトを展開されることを心から願っております。

ありがとうございます！！